

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成23年度

KTC授業アンケート調査結果

[報告書 **抜粋**]

金沢工業高等専門学校

平成22年度KTC授業アンケート調査結果について

本校における授業アンケート報告は、今回で11回目、通算で9年目の報告となった。本年度も通年の調査としたのは、年間複数回の実施は好ましいものの、費用効果の面でやや支障があるためである。本年も昨年同様、設問にも改善が加えられている。

調査結果は、全授業に共通の設問と科目独自の設問に分かれており、本報告は共通部分を記載している。教員個人の担当科目にかかわるアンケート項目の調査結果については、自由記述も含め当該教員に個々に配布している。

本報告書では、本校の授業に関する調査結果の総括を示している。総括結果の内、経年変化に関する分析から推定できることは、教員各位が教育改善に努力した結果、学生の授業に対する興味や取り組みが好ましい傾向に向かったことである。更に、これが学生の満足度にも連携していると判断出来よう。この事実は、本校教職員の誇りであり、各位のご労苦に対し、心から感謝申し上げます。

最近わが国において、私学は、顧客満足度を配慮しなければならない教育機関となりつつある。元来、教育はあるべきものを教授することであるから、顧客満足度のような学生のご機嫌を伺う評価尺度は、教育評価には適用できないはずである。しかし、学生は教員を選択できないので、教員側が教育のレベルを維持したまま、学生が満足する授業を運営する方策を確立することが大切になる。アンケートは落とし穴もあるが、少なくともイエロー信号を発している部分を気付かせてくれる。アンケート調査の功罪については、従来も議論されている。長期的見地に立てば、アンケート調査にかかわる学生が増える(評価の母数が増える)ことで、評価結果の精度も向上すると考えられる。また、経年変化を見ることで、教育の継続的效果を知ることができる。この意味では、アンケート調査結果については真摯に捕える必要がある。一般に教養科目に対する学生の評価は高く、専門工学分野で難度の高い科目を担当する教員の評価は、低くなりがちであると言う意見には妥当性も見られる。しかし、科目の難易度が評価結果に直結すると断言するのは、必ずしも正鵠を得ない。なぜなら、例年の如く、本総括に含まれない科目担当者ごとの特別評価項目の結果を詳細に見ると、難易度の高い教科でも担当教員が代わると、理解度が向上し担当教員に対する評価も上がる例が多々見られるからである。そのような場合には、新担当教員の教育手法が「そう思う」側にあることが分かる。また、自宅勉強する学生が増加するにつれ課題を課さない科目が明らかになり、これが勉学の伸びと関連しているように推測できる。したがって、授業に対する学生の満足度は、教員の教育技法に関する要改善目標を学生が示唆しているとも言える。

改善の始まりは気づきであり、結果については科目担当者の取捨資料となることを期待している。しかし、ミスマッチが表に出続ける場合には、面談の上改善を促すことにしている。

本校の全教職員が、アンケート調査結果の裏面にある事実や現象に気づき、より充実し満足度の高い授業の実現に努めることが肝要である。今後とも、改善の始まりは気づきであるということに着意し、本校では授業アンケートを実施し教育改善に役立てたい。

本アンケートの取りまとめに携わったKTC教育評価委員会を始め、CS室、教員各位および学生諸君の多くの方々のご尽力に感謝申し上げます。

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

全体概略

1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は、各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであり、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2)調査の概略

H23年度の調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H23年度のべ回答数	H23年度在校生数
	1年生	1,799件	139名
	2年生	1,517件	116名
	3年生	870件	63名
	4年生	1,534件	93名
	5年生	1,455件	100名
	全体合計	7,175件	511名
対象科目	237科目		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

3)実施スケジュール

H23年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	2月13日～2月17日	各授業の最終日に実施
	データ入力	2月14日～2月20日	OMRにより処理
	速報版作成	2月24日～2月29日	
	速報版完成	2月29日	データに不備があった4科目分は3月2日に完成 修学技法は3/13に完成
最終報告書作成作業	報告書作成	3月26日	

4)集計に関して

1. 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 学科構成は新構成の「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」と旧構成の「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」が混在しているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。
3. 学科別の集計では、同系列の学科を合わせた「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」の3つの学科で比較を行った。
4. 部会は以下の6つとした。「一般」「語学」「数理」「D・T(電気情報工学科、電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「C・G(国際コミュニケーション情報工学科、グローバル情報工学科)」
5. 「修学技法」はアンケート実施時期が遅くてデータ入力が間に合わなかったため集計には加えていない。(科目番号:12201、12202、12203)

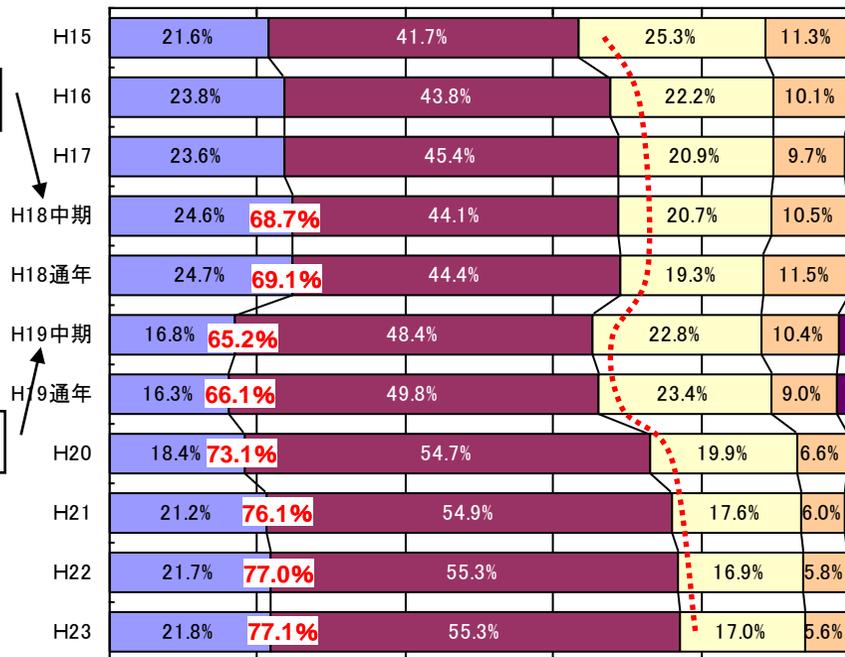
基本的な集計

1) 授業への取り組み姿勢

- H23の「A. 授業への興味(あなたは、この授業に興味を持って受けられたと思いますか?)」を見ると、「そう思う」が21.8%、「まあそう思う」が55.3%であり、合わせると77.1%が授業に興味を持って受けることができたと言っていた。
- 調査票の変更や無記名化などの変化があったが、以前との比較を行った。H19年以降は授業に対する興味が継続的に高まっていたが、今回も前回(H22)より0.1ポイントとわずかに高まり、これまでで最も高くなっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」では、「60分以上」が11.0%、「30~60分」が14.0%、「0~30分」が15.4%であり、ここまでを合わせると日常的に勉強している学生が40.4%であった。
- 以前と比較すると「60分以上」「30~60分」「0~30分」のいずれも増加しており、日常的に勉強している学生は前回(34.4%)より6.0ポイント増加していた。一方、「しなかった」は20.5%で、これまでで最も少なかった。

■A. 授業への興味

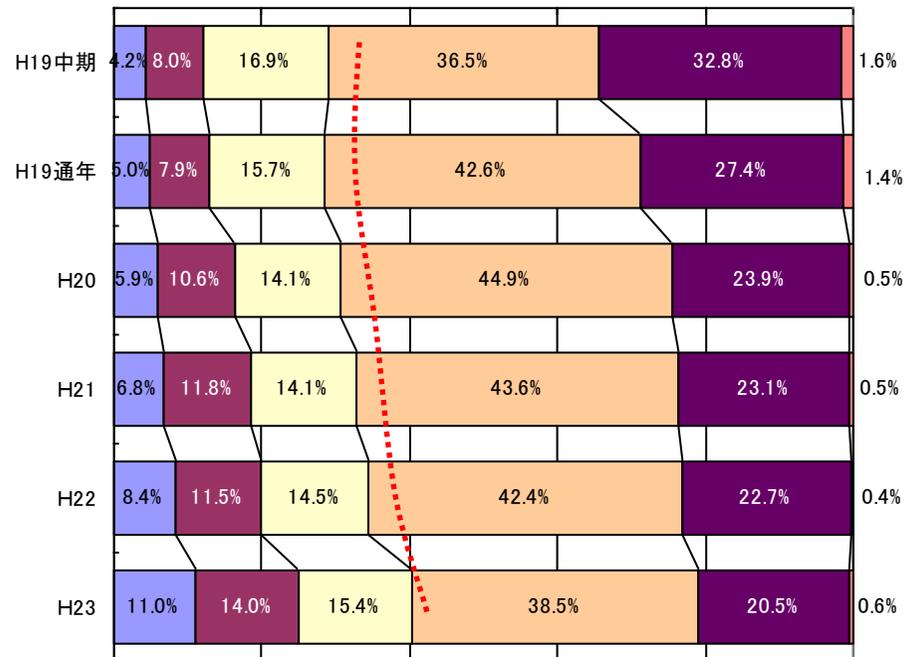
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ そう思う ■ まあそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない ■ 無回答

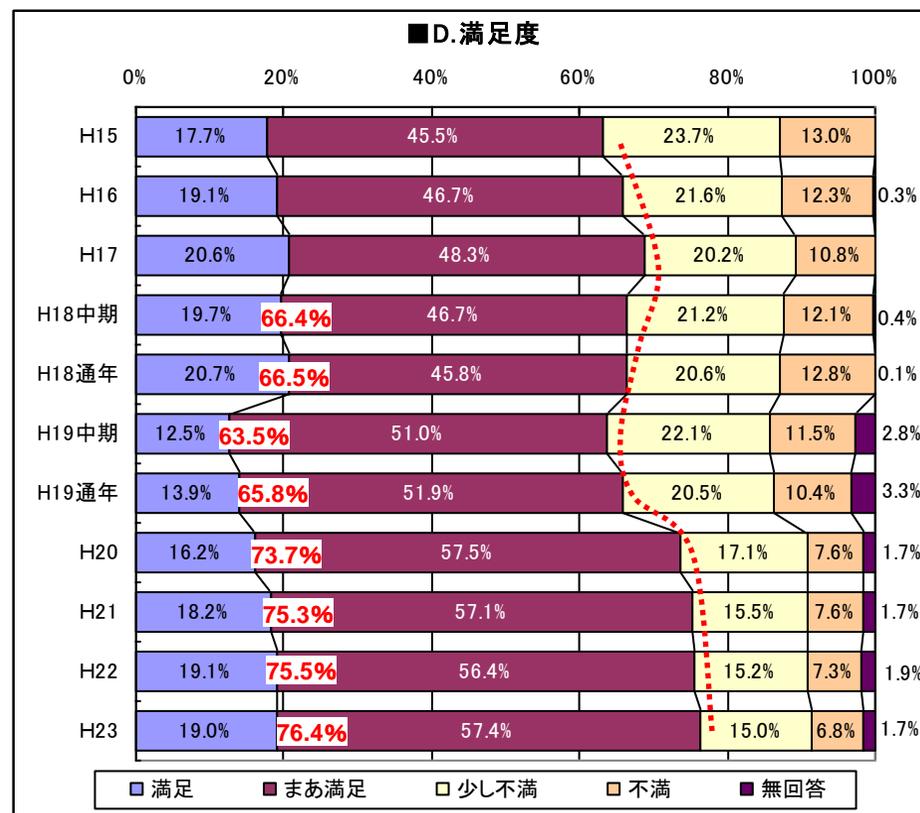
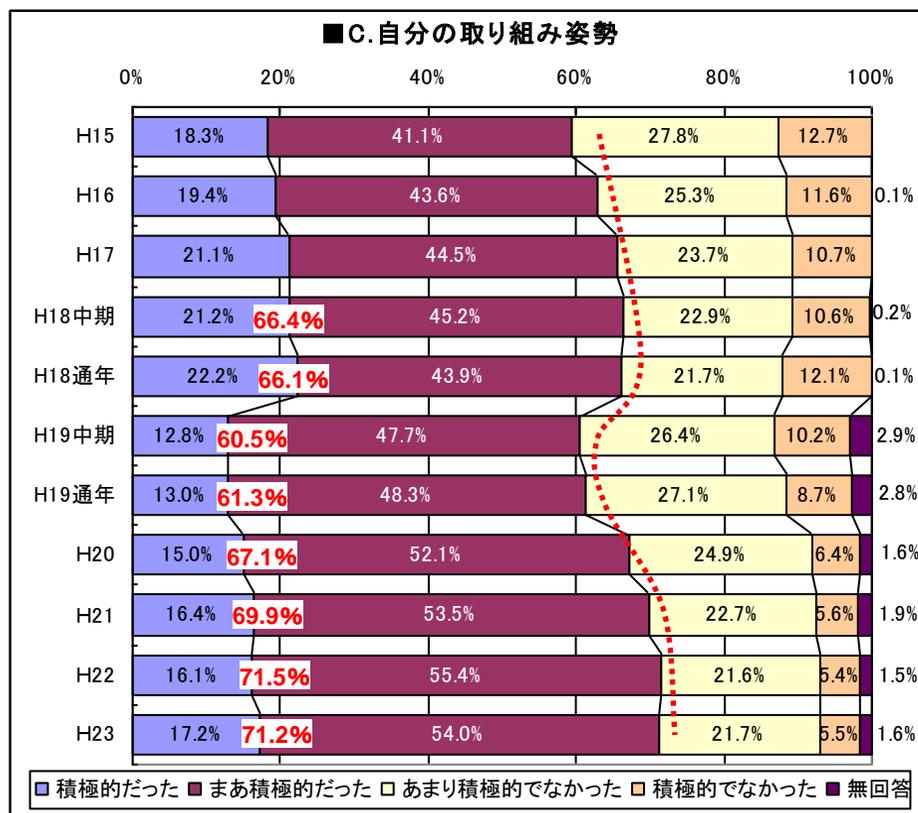
■B. 授業に対する宿題、予習、復習時間

0% 20% 40% 60% 80% 100%



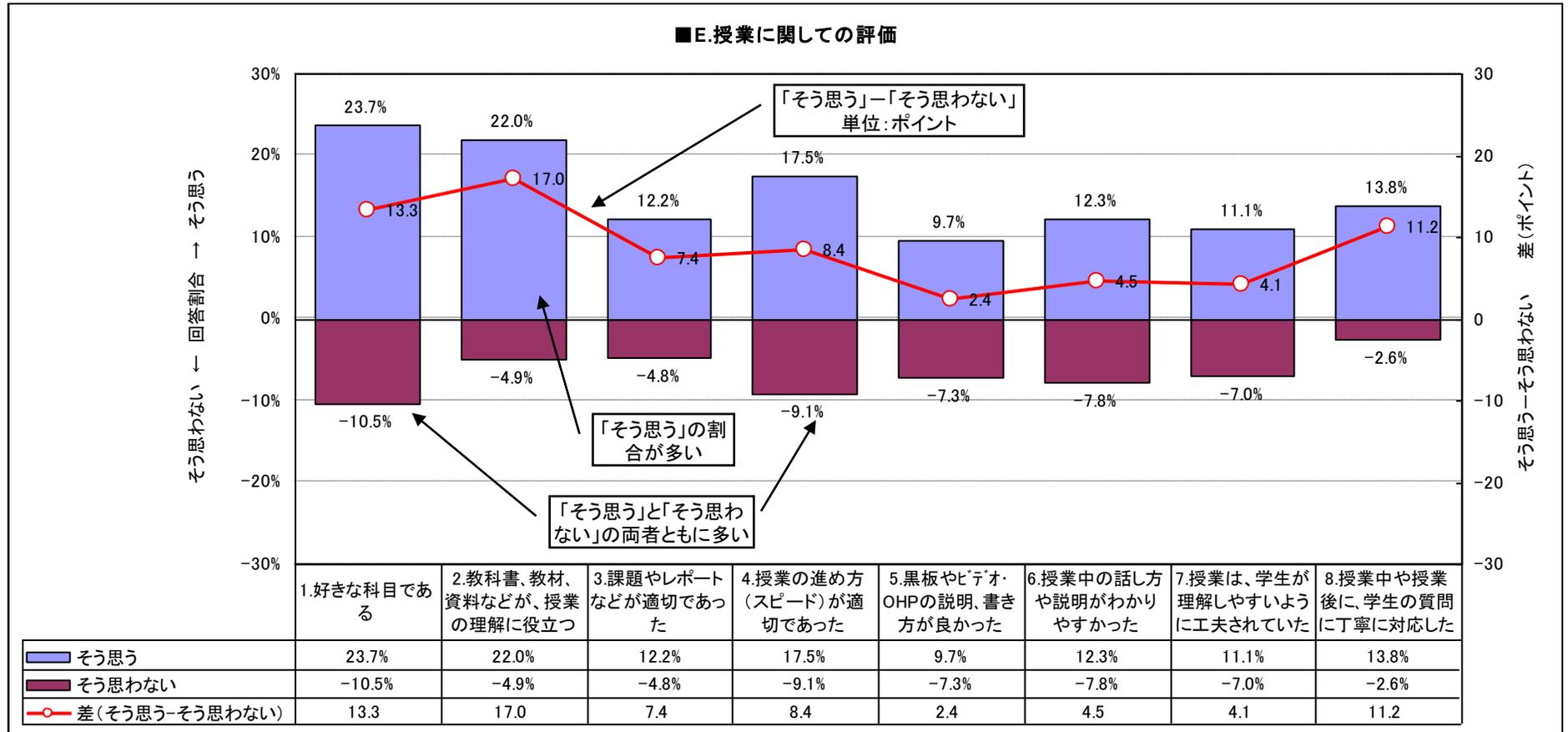
■ 60分以上 ■ 30~60分 □ 0~30分 □ 試験前だけ ■ しなかった ■ 無回答

- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」では、「積極的だった」が17.2%、「まあ積極的だった」が54.0%であり、合わせると71.2%が授業に積極的に取り組んだと答えていた。
- 前項の「興味」と同様にH19より継続的に積極的な学生が増加していたが、今回は前回を0.3ポイントとわずかに下回っていた。ただし、「積極的だった」だけを見ると前回を1.1ポイント上回っていた。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」では、「満足」が19.0%、「まあ満足」が57.4%であり、合わせると76.4%が授業に満足していると答えていた。
- 以前と比べると、満足しているという学生は前回よりも0.9ポイント増加し、H19から継続的に満足度は上がってきていた。そして、不満を持っている学生は前回より0.7ポイント減少していた。



2) 授業に関する評価

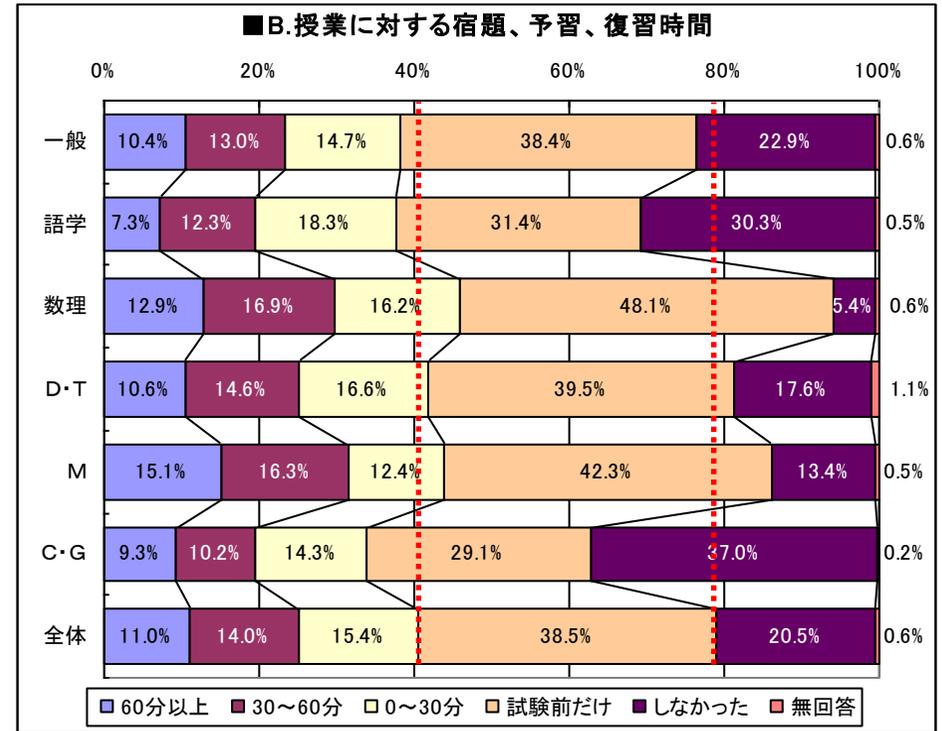
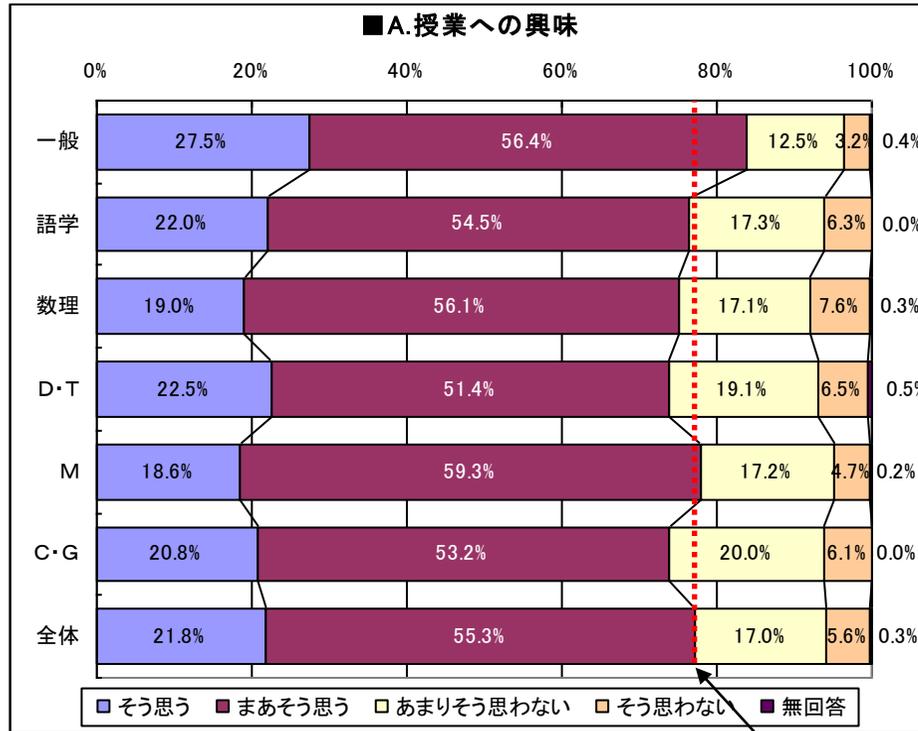
- 授業の8つの評価項目は、「そう思う」と「そう思わない」の2択で聞いており、下のグラフでは、「そう思う」の割合をプラス、「そう思わない」の割合をマイナスの棒グラフで表現し、「そう思う」から「そう思わない」を引いたものを折れ線グラフで表している。
- 「そう思う」が最も多かったのは「1.好きな科目である」であり、次いで「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が続いていた。一方、「そう思わない」が最も多かったのは「1.好きな科目である」であり、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」が続いていた。
- 「1.好きな科目である」「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」は「そう思う」と「そう思わない」の両者共に多く、意見が分かれる結果となっていた。
- 「そう思う」と「そう思わない」の差を見ると、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」「1.好きな科目である」の評価が高く、「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」の評価が低いとすることができる。



部会別の比較

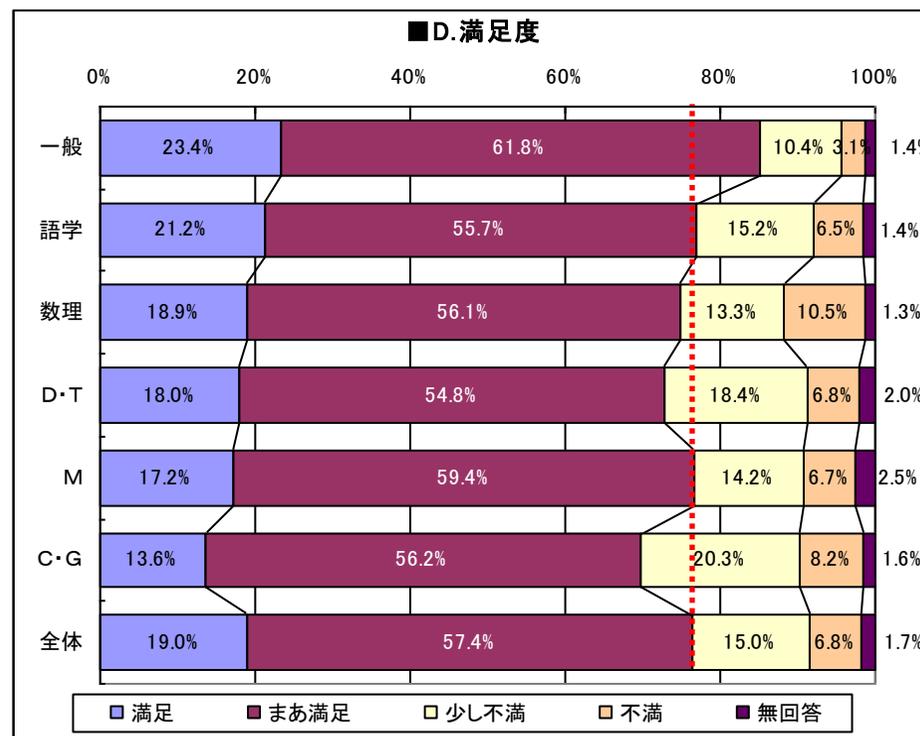
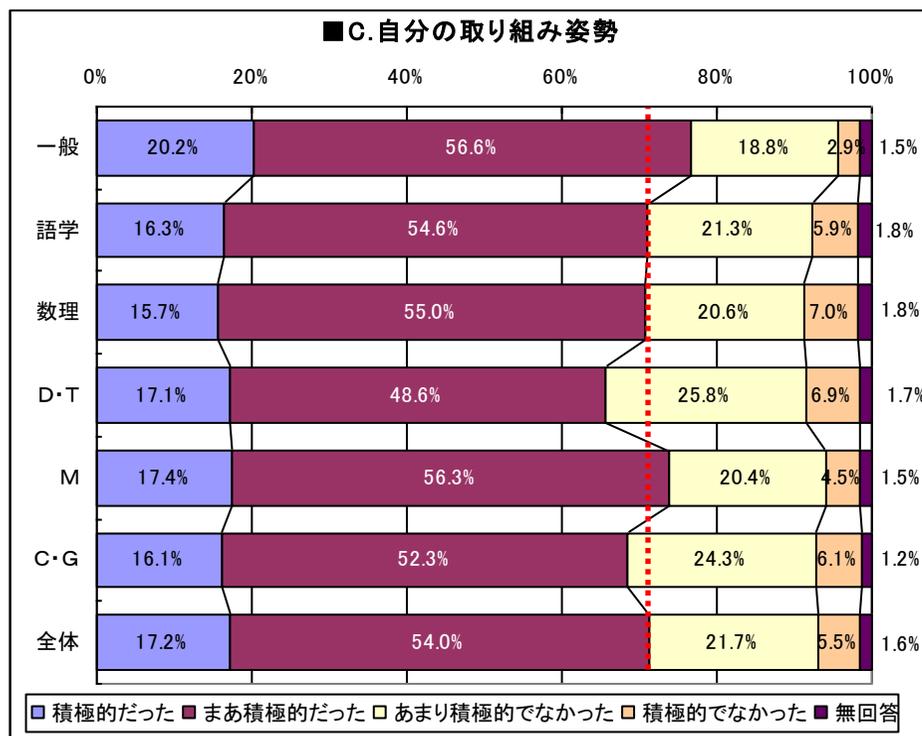
1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

- 6つの部会による違いを比較をした。専門部会はDとT、CとGを一緒に分類して比較している。
- 「A. 授業への興味」で「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合で比較を行ったところ、「一般」に対する興味が最も強く、83.9%が興味ありと答えていた。そして、「M」と「語学」が「全体」とほぼ同じで平均的であり、「C・G」「D・T」「数理」に対する興味はやや低めであった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」は部会による差が大きく、「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で比較すると「数理」「M」「D・T」の勉強時間が長めであり、「C・G」が短かった。
- 一方、「しなかった」が最も多かったのは「C・G」であり、37.0%が自宅で勉強をしなかったと答えていた。次いで「語学」が30.3%、「一般」が22.9%と続いており、「数理」が5.4%と最も少なかった。



「全体」の肯定的な意見と否定的な意見の境界

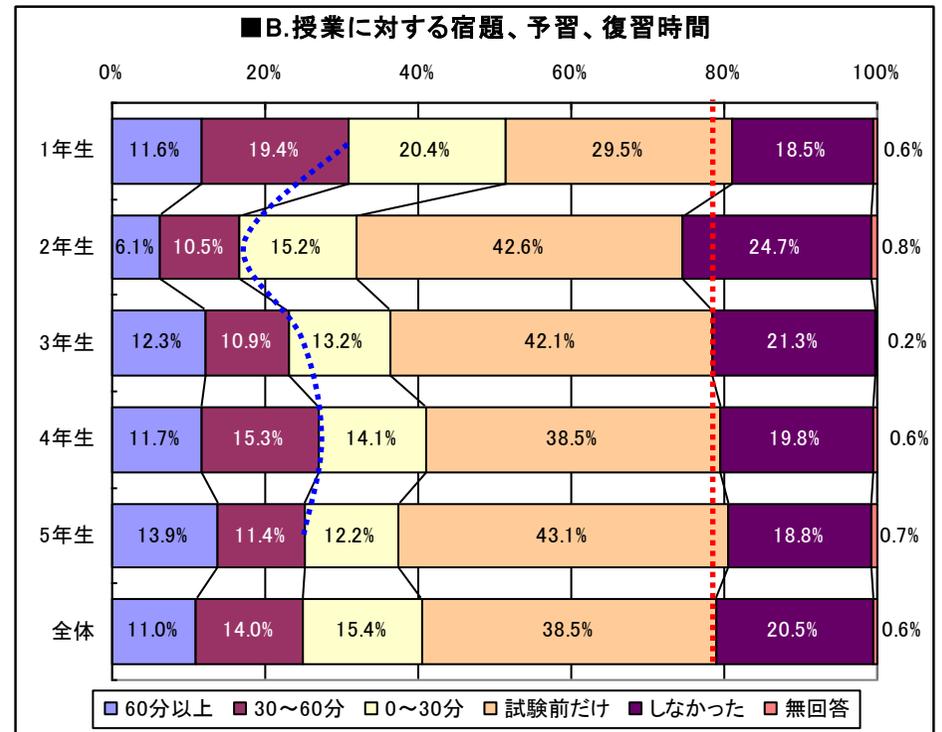
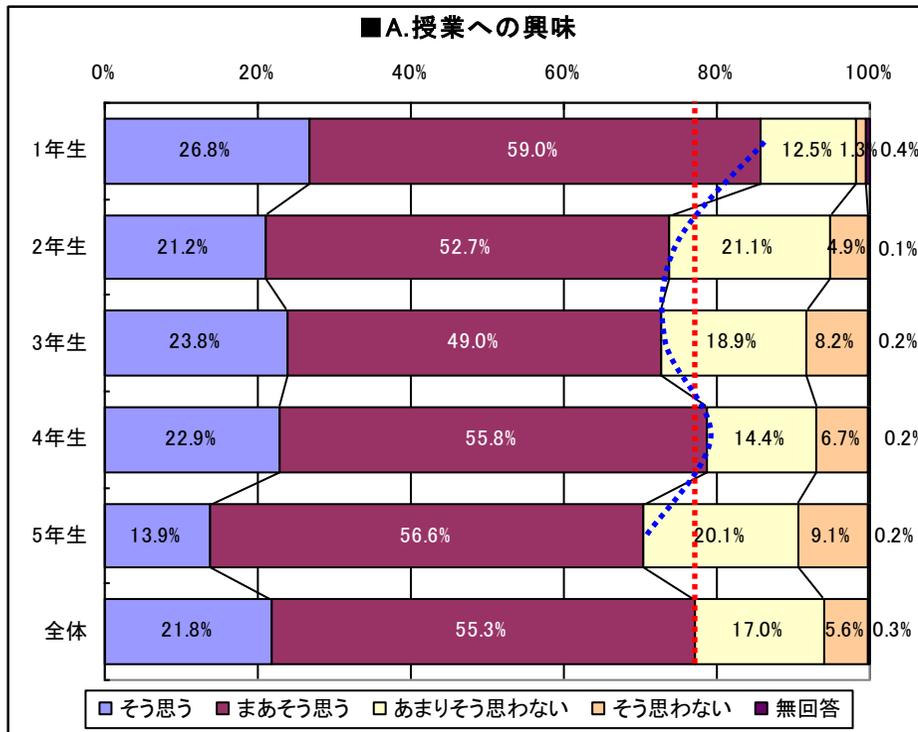
- 「C. 自分の取り組み姿勢」で「積極的だった」と「まあ積極的だった」を合わせた割合で比較すると、部会による差はそれほど大きくなかったが、「一般」「M」で積極性の強さが目立っており、「D・T」「C・G」が低かった。
- 「D. 満足度」は「一般」の高さが目立っており、「満足」は23.4%と最も多く、「まあ満足」を合わせると85.2%であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「C・G」であり、「満足」は13.6%と最も少なく、「まあ満足」を加えても69.8%であり、「一般」と比べると15.4ポイントの差がついていた。
- 「C・G」に次いで低かったのは「D・T」で、満足という回答は72.8%、続いて「数理」が75.0%であった。特に「数理」は「不満」という回答が10.5%と最も多く、強い不満を感じている学生が多いことが分かった。



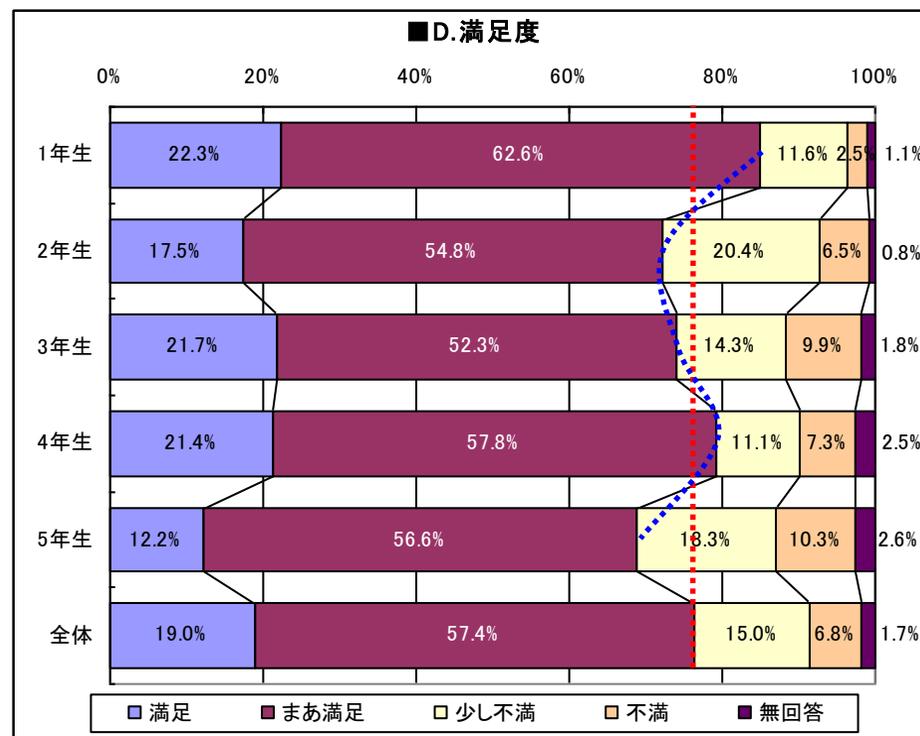
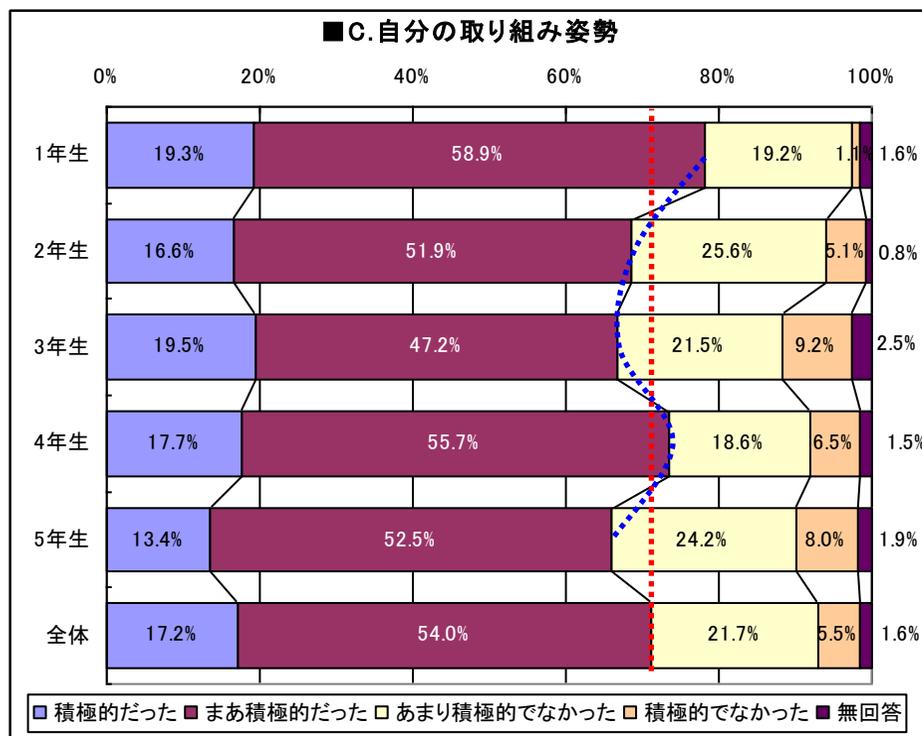
学年別の比較

1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 学年別に「A. 授業への興味」で「そう思う」と「まあそう思う」の合計を見ると、「1年生」と「4年生」で授業に対する興味が強く、「1年生」は85.8%、「4年生」は78.7%が興味ありと答えていた。他の学年の興味はやや低めで、特に「5年生」の興味が弱く、興味があるという回答は70.5%にとどまった。全体としては学年との相関関係は見られなかった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」で「60分以上」と「30～60分」の合計を見ると、「1年生」では31.0%で最も多く、「0～30分」を加えると51.4%が自宅で学習していると答えていた。
- 勉強時間が最も少なかったのは「2年生」であり、「60分以上」と「30～60分」の合計は16.6%にとどまった。そして、「3年生」「4年生」と学年が上がるほど勉強をする時間が増えており、「5年生」ではやや減少する傾向が見られた。
- 勉強を「しなかった」だけを見ると「2年生」がやや多いものの、学年による差はそれほど見られなかったが、全体を見ると「1年生」と「4年生」が自宅でしっかりと勉強しているということが分かった。



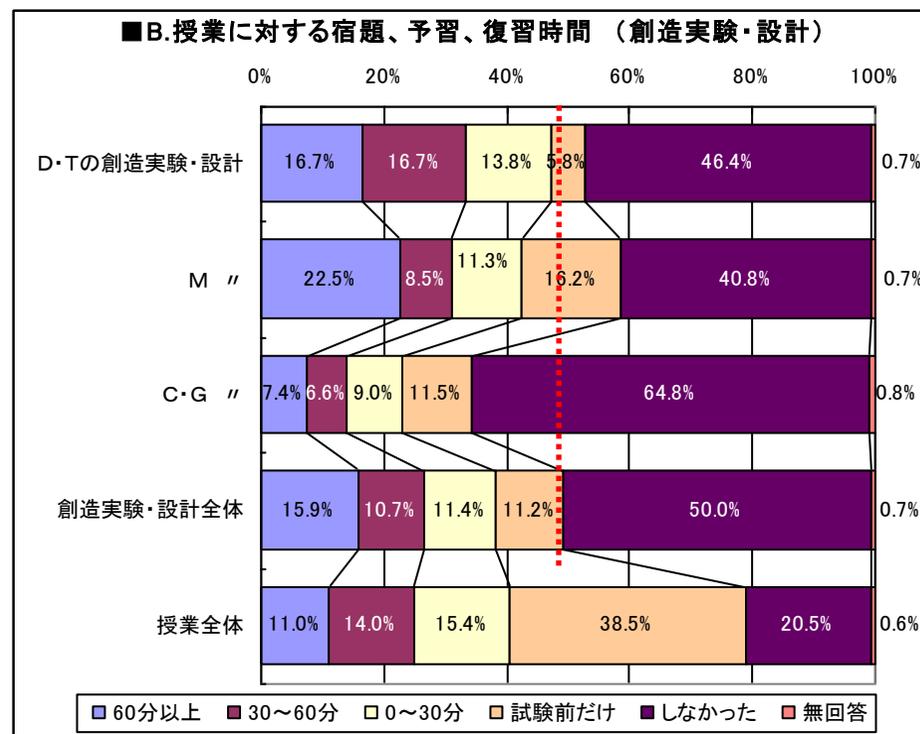
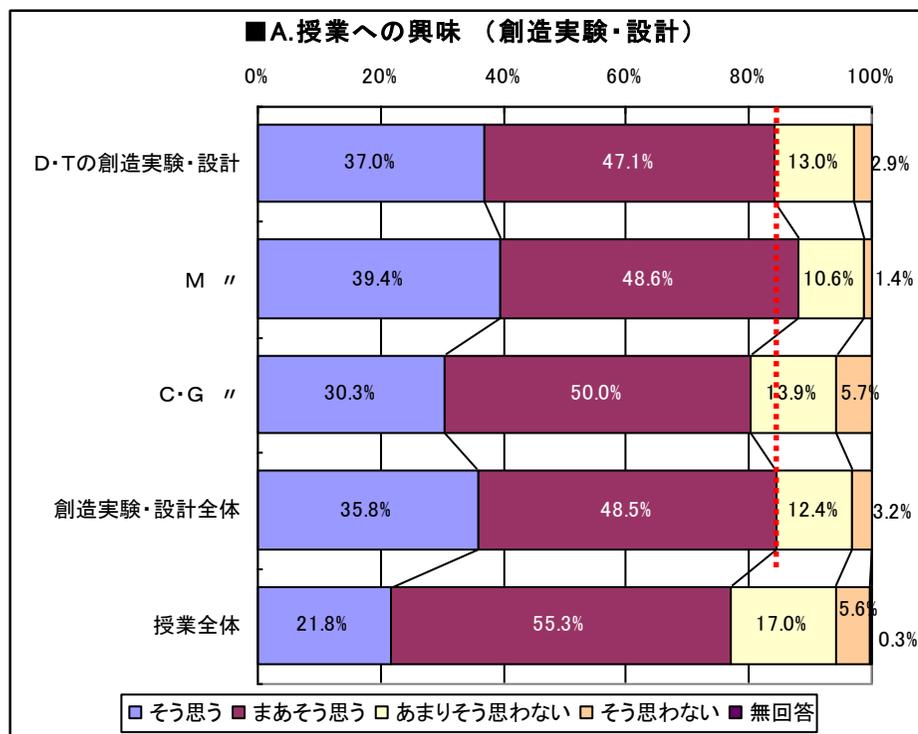
- 「C. 自分の取り組み姿勢」も「積極的だった」と「まあ積極的だった」を合わせると、「1年生」が最も積極的であり、「4年生」が続く結果となっていた。そして、差は少ないものの「2年生」「3年生」「5年生」と、学年が高くなるほど積極性がやや低下する傾向が見られた。
- 「3年生」は全体としては積極性が低かったが、「積極的だった」だけを見るとわずかな差ではあるが最も多く、一方、「積極的でなかった」も最も多かった。これを見ると、「3年生」には積極的な学生と積極的でない学生の両端が多く、意識の差も大きいのではないかとと思われる。
- 「D. 満足度」も他の指標と同様に「1年生」が最も高く、84.9%が満足と答えており、次いで「4年生」が79.2%であった。
- 他の指標では「2年生」「3年生」「5年生」と徐々に「興味」や「積極性」が低下する傾向が見られたが、「満足度」に関しては「2年生」よりも「3年生」の方が高く、「5年生」が最も低いという結果となっていた。「5年生」の満足度は特に低く、満足という回答は68.8%であり、「1年生」と比べると16.1ポイントの差がついていた。



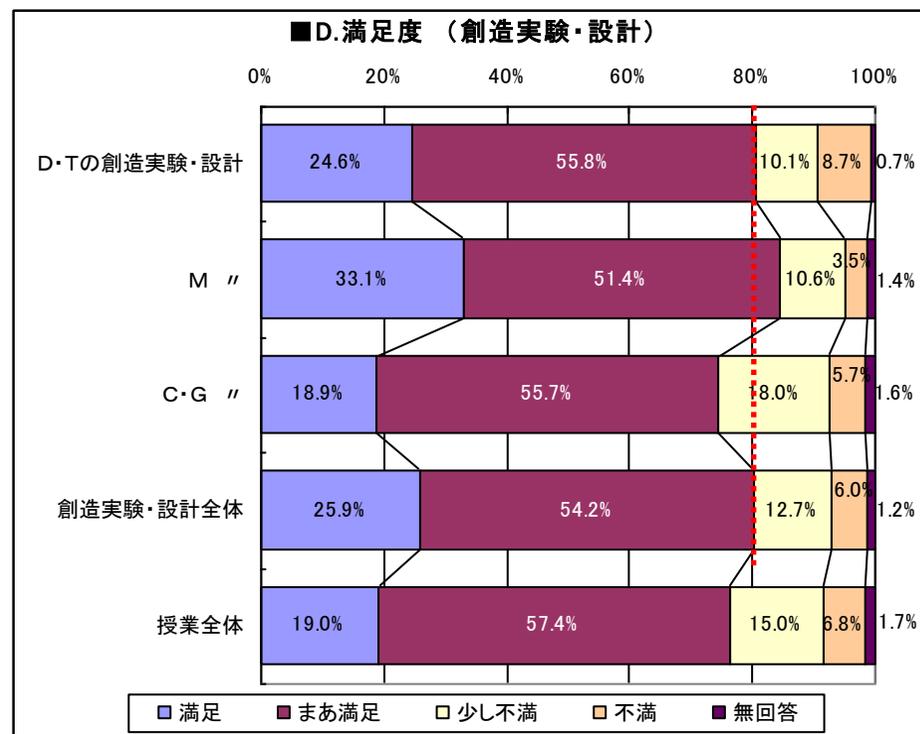
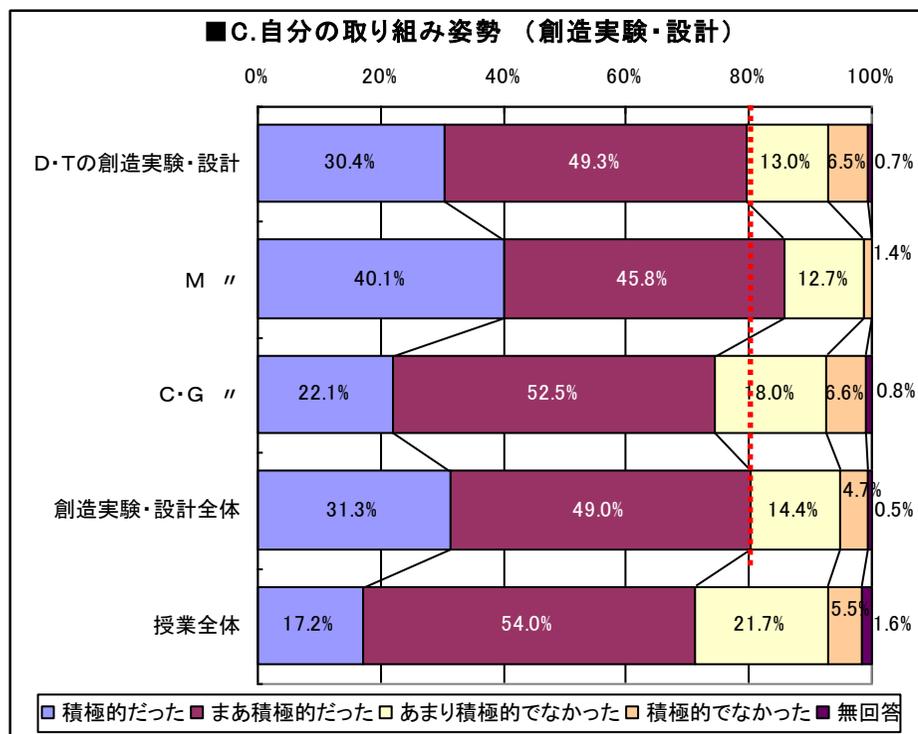
創造実験・設計に関して

1) 創造実験・設計の授業への取り組み姿勢比較

- 「創造実験・設計」の科目だけを抽出し、部会毎の比較を行った。比較対象として「授業全体」の結果も表示している。
- 「A. 授業への興味」に関して「そう思う」と「まあそう思う」の合計を見ると、「創造実験・設計全体」(84.3%)は「授業全体」(77.1%)よりも強く興味を持たれており、7.2ポイントの差があった。
- 部会別に「そう思う」と「まあそう思う」の合計を比較すると、「M」の興味がやや強く、「C・G」が弱いという傾向が見られた。両者の差は7.7ポイントであった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」で「授業全体」と「創造実験・設計全体」を比較すると、「創造実験・設計全体」では自宅学習をしていない学生が50.0%と非常に多かった。しかし、「60分以上」だけを見ると「創造実験・設計全体」の方が多く、一部の学生はしっかりと学習している様子が見えかけた。
- 部会毎に見ると差が明らかであり「M」は「しなかった」が40.8%と最も少なく、「60分以上」は22.5%と最も多かった。一方、「C・G」は「しなかった」が64.8%と非常に多く、「60分以上」は7.4%にとどまっておられ、部会による取り組み姿勢に大きな違いが見られた。



- 「C. 自分の取り組み姿勢」で「積極的だった」と「まあ積極的だった」の合計で比較すると、「授業全体」の71.2%に対して「創造実験・設計全体」では80.3%であり、積極的に取り組んでいる様子がうかがえた。
- 部会別の差では、「積極的だった」と「まあ積極的だった」の合計ではそれほど大きな差はなく、「M」がやや積極的で「C・G」が低めであったが、「積極的だった」だけを見ると「M」の40.1%に対して「C・G」は22.1%であり、その差は18ポイントと大きかった。
- 「D. 満足度」で「満足」と「まあ満足」の合計を「授業全体」と「創造実験全体」で比較すると、それほど大きな差は見られなかったが、「満足」だけで見ると「創造実験・設計全体」の方が6.9ポイント高く、満足度の高さが確認できた。
- 部会別でも「満足」と「まあ満足」の合計で見るとそれほど差は大きくなかったが、「満足」だけを見ると「M」では33.1%と全体の1/3を占めていたが、「D・T」では24.6%、「C・G」では18.9%と下がってきており、「M」と「C・G」の差は14.2ポイントと大きかった。また、「D・T」では「不満」が8.7%とやや多く、強い不満を感じている学生も一部にいたことが確認できた。



部会別、評価の高かった科目比較

1)一般

- 加重平均によって科目の「興味」「積極性」「満足度」を点数化し、部会毎にH22とH23のスコアを比較した。
- H23で評価が高かった科目は「保健体育Ⅳ」で、「興味」「積極性」「満足度」のいずれも最も高い評価であった。「保健体育」は「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」のいずれも比較的评价が高く、学生が積極的に取り組んでいる様子が見える。また、「保健体育」はH22にも高評価であり、いつも学生が積極的に取り組んでいるようであった。
- 「倫理」も評価が高く、3つの指標のいずれも上位から2番目の評価であった。「倫理」はH22にも高評価であり、「保健体育」と同様に常に評価の高い科目である。
- 上記の2科目以外は評価が分かれていたが、「国語Ⅰ」はやや高い評価であった。また、H22には「心理学」「政治経済」などの評価がやや高めであったが、H23にはそれらの科目は上位に入っていなかった。

■H22で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	倫理	7.14	保健体育ⅣA	6.07	倫理	7.50
2	保健体育ⅣA	6.61	倫理	5.71	保健体育Ⅲ	6.99
3	心理学A	6.55	保健体育Ⅲ	5.57	政治経済	6.88
4	保健体育Ⅲ	6.25	保健体育Ⅰ	4.61	保健体育ⅣA	6.42
5	保健体育Ⅰ	5.81	保健体育Ⅱ	4.36	心理学A	5.89
6	国語Ⅰ	5.48	国語Ⅰ	4.12	国語Ⅰ	5.66
7	政治経済	5.19	政治経済	3.88	世界史	5.56
8	保健体育Ⅱ	5.19	国語Ⅲ	3.83	国語Ⅲ	5.31
9	国語Ⅱ	5.06	世界史	3.64	国語Ⅳ	4.74
10	国語Ⅲ	4.57	文化・芸術・思想Ⅰ	3.36	保健体育Ⅰ	4.70

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育Ⅳ	8.43	保健体育Ⅳ	7.71	保健体育Ⅳ	8.14
2	倫理	7.67	倫理	6.79	倫理	7.00
3	文学	6.88	国語Ⅰ	4.96	国語Ⅳ	5.77
4	国語Ⅰ	5.98	デザイン概論	4.64	保健体育Ⅲ	5.58
5	保健体育Ⅰ	5.71	保健体育Ⅰ	4.51	社会科学Ⅰ	5.41
6	保健体育Ⅱ	5.35	保健体育Ⅲ	4.50	国語Ⅲ	5.24
7	国語Ⅲ	4.84	保健体育Ⅱ	4.25	歴史Ⅰ	5.23
8	保健体育Ⅲ	4.84	国語Ⅳ	3.78	保健体育Ⅰ	5.19
9	デザイン概論	4.83	歴史Ⅱ	3.77	歴史Ⅱ	5.16
10	心理学B	4.81	歴史Ⅰ	3.63	国語Ⅰ	5.15

2) 語学

- 語学で評価が高かったのは「英語表現技法」であり、「興味」は2番目であったが、「積極性」「満足度」の評価は最も高かった。「英語表現技法」はH22には全ての項目で最も高い評価であった。
- 上記の他には「日本文化」の評価がやや高めであり、「世界事情」は「Ⅰ」「Ⅱ」のいずれもやや高めの評価であった。ただし、この2つはH22にはそれほど高い評価ではなく、H23になって評価が上がった科目と言える。
- H22に高評価であった「英語討議技法」は上位に入っていなかった。また、H22に高評価であった「上級英語Ⅱ」もH23には「積極性」がやや高いだけという評価となっていた。

■H22で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	英語表現技法	7.94	英語表現技法	7.65	英語表現技法	8.13
2	英語討議技法	7.50	英語討議技法	6.25	上級英語Ⅱ	6.39
3	上級英語Ⅱ	7.06	英語総合技能Ⅰ	4.76	英語討議技法	6.25
4	英語作文技法	5.71	上級英語Ⅱ	4.72	英語総合技能Ⅱ	5.87
5	英語スキルズⅠ	5.26	世界事情Ⅱ	4.50	英語総合技能Ⅰ	5.75
6	世界事情Ⅰ	5.16	英語スキルズⅠ	3.91	日本文化	5.31
7	英語総合技能Ⅰ	5.00	世界事情Ⅰ	3.75	時事英語	5.16
8	上級英語Ⅰ	4.70	英語資格技術	3.57	英語スキルズⅠ	5.04
9	時事英語	4.39	上級英語Ⅰ	3.44	英語作文技法	5.00
10	日本文化	4.38	英語発表技法／ 外国事情	3.33	英語資格技術	5.00

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	世界事情Ⅱ	8.33	英語表現技法	7.50	英語表現技法	7.50
2	英語表現技法	7.50	上級英語Ⅱ	6.25	日本文化	6.54
3	世界事情Ⅰ	7.00	日本文化	6.15	ドイツ語	6.43
4	日本文化	6.92	世界事情Ⅱ	5.83	世界事情Ⅰ	6.00
5	英語発表技法	5.37	世界事情Ⅰ	4.79	上級英語Ⅰ	5.87
6	上級英語Ⅰ	5.32	英語発表技法	4.42	世界事情Ⅱ	5.83
7	英語スキルズⅠ	4.85	上級英語Ⅰ	4.36	総合英語Ⅰa	5.39
8	総合英語Ⅰa	4.85	英語スキルズⅢ	4.34	英語スキルズⅢ	4.92
9	英語スキルズⅢ	4.60	英語スキルズⅠ	4.12	英語総合技能Ⅱ	4.79
10	英語総合技能Ⅱ	4.58	総合英語Ⅰb	3.59	総合英語Ⅰb	4.47

3) 数理

- 数理の科目では「微分積分Ⅰ」が3指標共に最も高い評価となっていた。「微分積分Ⅰ」はH22にも3指標共に2番目の評価であった。
- 上記に次いで「応用数学」が3つの指標共に2番目の評価であった。H22には「応用数学」自体の評価はそれほど高くなかったが、同じ系統の科目である「応用数学Ⅱ」は3指標共に最も評価が高かった。
- その他として目立っていたのは「物理・化学Ⅰ」「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」といった科目であった。「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」はH22も比較的高い評価であったが、「物理・化学Ⅰ」はそれほどでもなく、H23になって評価が上がったと言える。
- 「数学特論」は「満足度」が3番目と高かったが、「興味」「積極性」はそれほど高くなく、あまり期待を持たずに受け、受けてみると満足度が高かった科目と言える。

■H22で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	応用数学Ⅱ	6.15	応用数学Ⅱ	5.83	応用数学Ⅱ	6.80
2	微分積分Ⅰ	6.01	微分積分Ⅰ	4.49	微分積分Ⅰ	5.71
3	基礎数学Ⅱ	4.74	基礎数学Ⅱ	3.82	物理・化学Ⅱ	4.21
4	物理・化学Ⅱ	3.92	物理・化学Ⅱ	3.29	応用数学	4.03
5	基礎数学Ⅰ	3.64	線形代数Ⅰ	3.23	化学	3.88
6	化学	3.63	応用物理Ⅱ	2.62	基礎数学Ⅱ	3.82
7	応用数学	3.61	化学	2.53	物理・化学Ⅰ	3.53
8	物理・化学Ⅰ	3.55	基礎数学Ⅰ	2.43	基礎数学Ⅰ	3.23
9	線形代数Ⅰ	3.16	物理・化学Ⅰ	2.41	線形代数Ⅰ	3.16
10	応用物理Ⅱ	2.35	微分積分Ⅱ	1.81	応用物理Ⅱ	2.42

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	微分積分Ⅰ	5.63	微分積分Ⅰ	5.36	微分積分Ⅰ	5.98
2	応用数学	5.28	応用数学	4.86	応用数学	5.57
3	物理・化学Ⅰ	5.24	線形代数Ⅱ	3.97	数学特論	5.48
4	基礎数学Ⅰ	4.54	物理・化学Ⅰ	3.89	基礎数学Ⅱ	5.04
5	基礎数学Ⅱ	4.35	基礎数学Ⅱ	3.83	物理・化学Ⅰ	4.84
6	線形代数Ⅱ	3.93	基礎数学Ⅰ	3.26	基礎数学Ⅰ	4.58
7	数学特論	3.71	数学特論	2.90	線形代数Ⅱ	4.25
8	応用物理Ⅱ	3.69	応用物理Ⅱ	2.86	応用物理Ⅱ	3.55
9	物理・化学Ⅱ	2.85	物理・化学Ⅱ	2.54	物理・化学Ⅱ	2.96
10	線形代数Ⅰ	2.77	線形代数Ⅰ	2.41	応用物理Ⅰ	2.78

4)D・T

- 「電気系(D・T)」では、「アルゴリズム」が「興味」は低かったものの「積極性」「満足度」で最も高い評価であり、あまり興味がなかったものの、受けると満足した科目だったと言える。ただし、H22には「興味」においても最も高く、今回は何らかの理由で「興味」が低下する結果となっていた。
- 次いで「インターンシップ」の評価が高かったが、これはH22にも3指標共に高評価であり、同じような結果となっていた。
- 科目名の変更の可能性もあるが、H22に評価の高かった「コンピュータグラフィクス」は今回の上位には入っていなかった。
- 金沢高専の特徴的な科目である「創造実験」を見たところ、H23には「興味」「積極性」では「創造実験Ⅰ」の評価が高く、「満足度」では「創造実験Ⅳ」が高かった。H22には「創造実験」の評価はそれほど高くなく、H23に評価が上がったと言える。

■H22で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	アルゴリズム	9.00	アルゴリズム	9.00	アルゴリズム	8.00
2	インターンシップ	8.33	インターンシップ	7.81	コンピュータグラフィクス	7.86
3	コンピュータグラフィクス	6.96	コンピュータグラフィクス	6.79	インターンシップ	7.67
4	オペレーティングシステム	6.43	卒業研究	5.33	送配電工学	6.21
5	情報工学Ⅰ	6.38	コンピュータⅡ	5.00	電気機器	5.89
6	創造実験Ⅱ	6.36	ソフトウェア工学	5.00	情報伝送工学	5.86
7	情報工学Ⅱ	6.11	送配電工学	5.00	電子回路Ⅱ	5.83
8	コンピュータⅠ	5.63	電気機器	4.81	設計製図	5.65
9	コンピュータⅡ	5.38	創造実験Ⅲ	4.78	情報工学Ⅰ	5.50
10	ソフトウェア工学／ 創造実験Ⅰ／ 送配電工学	5.00	創造実験Ⅱ	4.77	オペレーティングシステム	5.25

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータⅠ	6.63	アルゴリズム	6.00	アルゴリズム	7.00
2	インターンシップ	6.40	インターンシップ	5.60	インターンシップ	5.60
3	創造実験Ⅰ	6.28	卒業研究	5.17	デジタル回路	5.36
4	情報工学Ⅰ	6.20	創造実験Ⅰ	5.11	創造実験Ⅳ	5.19
5	発変電工学	5.91	コンピュータⅡ	4.88	コンピュータ演習Ⅳ	5.00
6	創造実験Ⅳ	5.54	設計製図	4.81	情報工学Ⅰ	5.00
7	創造実験Ⅱ	5.12	創造実験Ⅱ	4.51	設計製図	5.00
8	アルゴリズム	5.00	創造実験Ⅳ	4.46	発変電工学	5.00
9	コンピュータⅡ	5.00	発変電工学	4.09	コンピュータⅢ	4.32
10	電気基礎	4.78	コンピュータⅠ	4.05	マルチメディア	4.29

※「創造実験」を太文字としている。

5)M

- 「機械系(M)」で3指標共に最も評価が高かったのは「創造実験Ⅳ」であった。そして「創造設計Ⅰ・Ⅲ」はいずれも「興味」が高く、学生は「創造実験・設計」に強い興味を持って受けていることが分かった。「創造実験Ⅲ」はH22にも「興味」「積極性」が高かったが、今回は全体的に前回は上回る評価となっていた。
- 「創造実験・設計」に次いで「情報処理Ⅰ」「インターンシップ」「制御工学」の評価が高めであった。「情報処理Ⅰ」と「インターンシップ」はH22にも高い評価であったが、「制御工学」は前回の上位には入っていなかった。
- H22には上位であった「エレクトロニクス」「CAD/CAM」はH23には入っておらず、入れ代わっているものも多く見られた。

■H22で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	情報処理Ⅰ	6.63	インターンシップ	6.11	エレクトロニクス	5.81
2	創造実験Ⅲ	5.71	創造実験Ⅲ	6.00	機械材料	5.14
3	エレクトロニクス	5.68	卒業研究	5.77	CAD/CAM	5.00
4	インターンシップ	5.42	情報処理Ⅰ	5.64	情報処理Ⅰ	5.00
5	CAD/CAM	5.27	マイコン制御	5.14	ロボット工学	4.59
6	マイコン制御	5.00	創造実験Ⅳ	5.14	機械工学演習Ⅰ	4.58
7	ロボット工学	5.00	創造設計Ⅰ	4.75	インターンシップ	4.43
8	卒業研究	4.87	ロボット工学	4.73	マイコン制御	4.41
9	創造実験Ⅱ	4.85	機械工学演習Ⅰ	4.72	創造実験Ⅲ	4.29
10	創造設計Ⅰ	4.63	CAD/CAM	4.31	先端材料工学	4.26

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造実験Ⅳ	7.50	創造実験Ⅳ	8.06	創造実験Ⅳ	8.06
2	創造設計Ⅰ	6.00	インターンシップ	6.36	情報処理Ⅰ	5.80
3	創造設計Ⅲ	6.00	創造設計Ⅰ	6.00	制御工学	5.71
4	情報処理Ⅰ	5.91	情報処理Ⅰ	5.24	流体力学	5.71
5	インターンシップ	5.88	制御工学	5.00	エネルギー工学	5.43
6	流体力学	5.42	材料力学Ⅱ	4.57	インターンシップ	5.16
7	機械製図Ⅰ	5.34	先端材料工学	4.46	熱力学	5.15
8	材料力学Ⅱ	5.28	機械製図Ⅰ	4.43	機械製図Ⅰ	5.00
9	制御工学	5.28	創造設計Ⅲ	4.40	材料力学Ⅱ	5.00
10	CAD/CAM	5.14	卒業研究	4.05	創造設計Ⅰ	5.00

※「創造実験・設計」を太文字としている。

6) C・G

- 「国際・グローバル(C・G)」では「インターンシップ」「卒業研究」などの評価が高く、「電気電子工学Ⅱ」も「積極性」はランク外であったが、「興味」と「満足度」は高かった。H22でも「インターンシップ」「電気電子工学Ⅱ」の評価は高めであった。
- 「創造設計Ⅳ」は「満足度」が最も高く全体的に高い評価であったが、他の部会と比べると「創造実験・設計」の評価はやや低いと言える。この傾向はH22も同じであり、H22には「創造実験Ⅰ」以外の科目は上位に入っていなかった。
- 上記以外では「マルチメディア」「英語コンピュータリテラシー」などの評価が高めであった。「英語コンピュータリテラシー」はH22と同じような評価となっていた。

■H22で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	6.83	電気電子工学Ⅱ	6.67	メカトロニクスⅡ	6.61
2	創造実験Ⅰ	6.67	インターンシップ	6.50	情報理論	6.54
3	情報処理Ⅰb	6.32	コンピュータ演習Ⅳ	5.86	コンピュータ演習Ⅳ	6.21
4	マルチメディア	6.29	コンピュータ演習Ⅲ	5.71	メカトロニクスⅠ	6.21
5	情報処理Ⅲb	6.19	創造実験Ⅰ	5.61	マルチメディア	6.17
6	メカトロニクスⅡ	5.97	情報処理Ⅰb	5.44	電気電子工学Ⅱ	5.83
7	コンピュータ演習Ⅳ	5.83	英語コンピュータリテラシー	5.41	英語コンピュータリテラシー	5.68
8	電気電子工学Ⅱ	5.83	マルチメディア	5.32	情報処理Ⅲb	5.50
9	メカトロニクスⅠ	5.67	情報理論	4.62	情報処理Ⅰb	5.29
10	英語コンピュータリテラシー	5.41	計算機システムⅠ／情報処理Ⅲ・OP	4.29	コンピュータ演習Ⅲ	5.24

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	6.30	卒業研究	6.67	創造実験Ⅳ	5.74
2	電気電子工学Ⅱ	6.25	インターンシップ	6.11	インターンシップ	5.19
3	卒業研究	5.76	マルチメディア	5.15	電気電子工学Ⅱ	5.00
4	創造実験Ⅳ	5.71	創造実験Ⅳ	4.82	情報理論	4.74
5	コンピュータグラフィクス	5.37	メカトロニクスⅡ	4.69	卒業研究	4.70
6	英語コンピュータリテラシー	5.23	英語コンピュータリテラシー	4.51	マルチメディア	4.69
7	メカトロニクスⅡ	5.00	創造実験Ⅰ	4.15	英語コンピュータリテラシー	4.65
8	計算機システムⅠ	4.86	計算機システムⅠ	3.75	メカトロニクスⅡ	4.50
9	マルチメディア	4.85	情報工学演習Ⅰ	3.52	計算機システムⅢ	4.17
10	情報工学演習Ⅰ	4.63	コンピュータグラフィクス	3.33	コンピュータグラフィクス	3.52

※「創造実験」を太文字としている。

達成度に関して

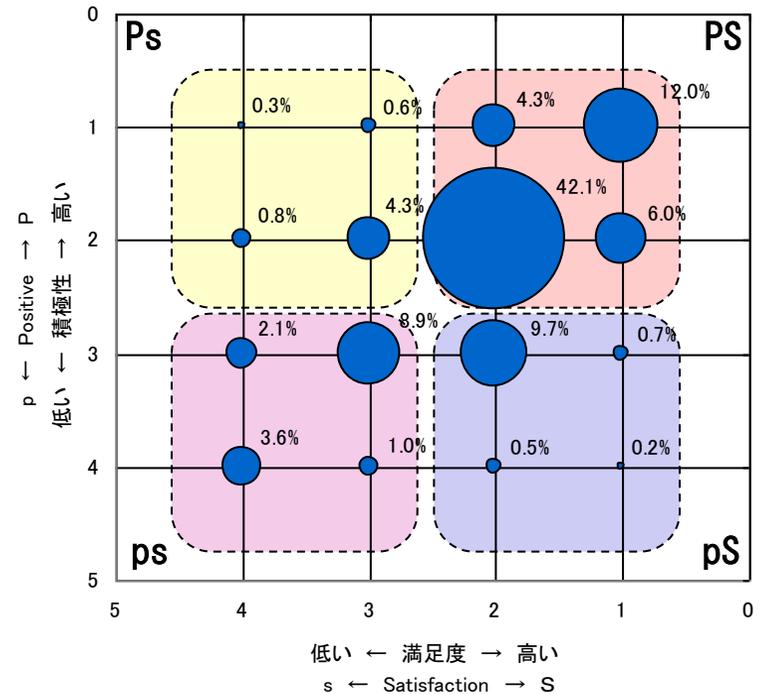
1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」の組合せによるPS指標で最も多かったのは、積極性も満足度も高い「PS・充実グループ」の64.4%であった。
- 「PS・充実グループ」の内訳を見ると、「満足している」かつ「積極的だった」という層は12.0%であった。一方、「まあ満足している」かつ「まあ積極的だった」が42.1%であり、満足度も積極性もまあまあだったという学生が多かったと言える。
- 上記に次いで、「積極性も満足度も低い」という「ps・あきらめグループ」が15.6%を占めており、「pS・引っぱられているグループ」が11.1%、「Ps・混迷グループ」が6.0%という割合であった。
- 経年変化では「PS・充実グループ」は前回よりも1.0ポイントであるが増加しており、H19より継続して増加していた。
- その他のグループの変動を見ると、いずれもわずかな変化ではあるが、「ps・あきらめグループ」が増加して、「pS・引っぱられているグループ」と「Ps・混迷グループ」が減少していた。

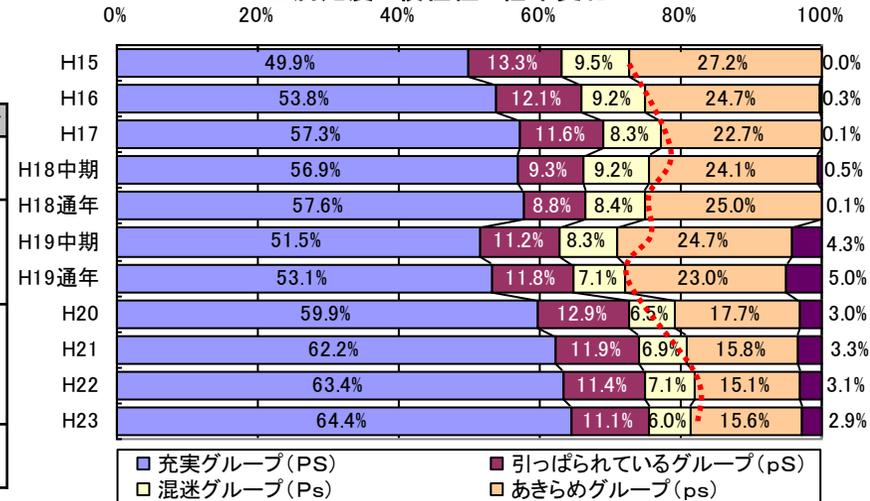
■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	●積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	64.4%
pS (引っぱられているグループ)	●積極性は低い ●満足度は高い	●それほど頑張らなかったが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ●求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	11.1%
Ps (混迷グループ)	●積極性は高い ●満足度は低い	●目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ●最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	6.0%
ps (あきらめグループ)	●積極性も満足度も低い	●授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ●まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	15.6%

■ 満足度と積極性の関係

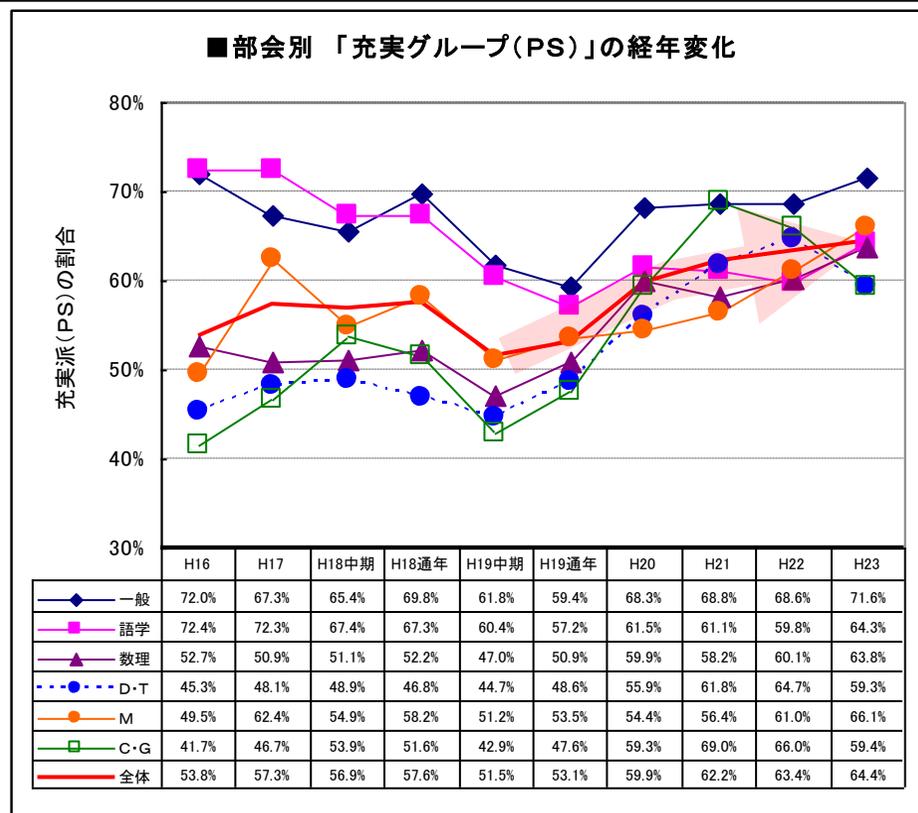
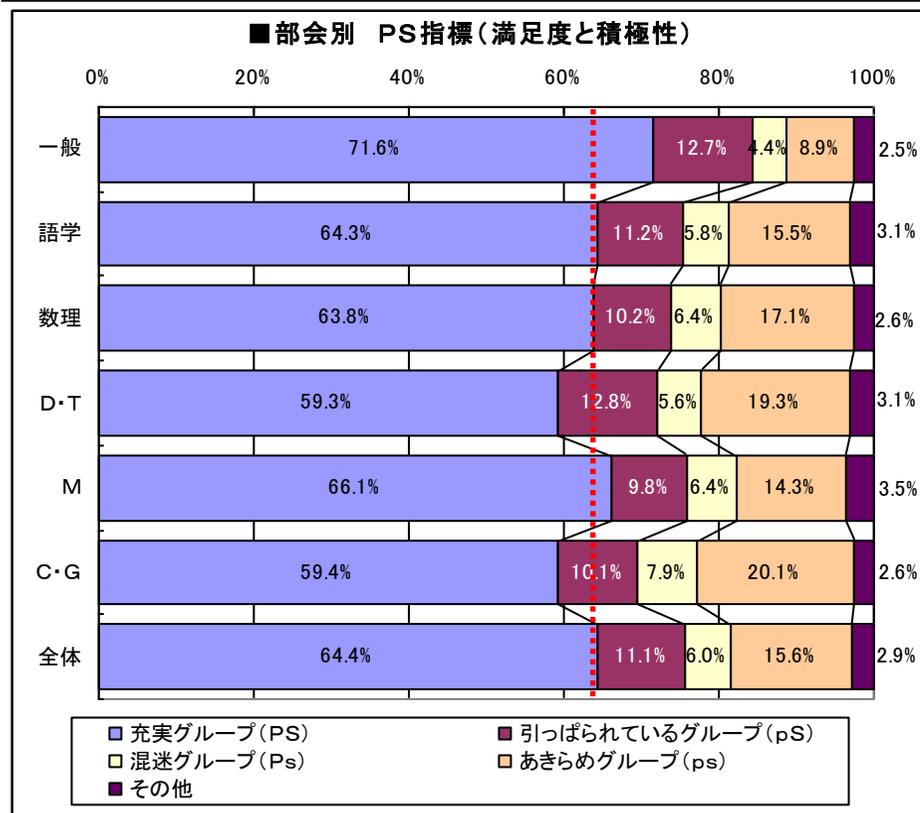


■ 満足度と積極性 経年変化



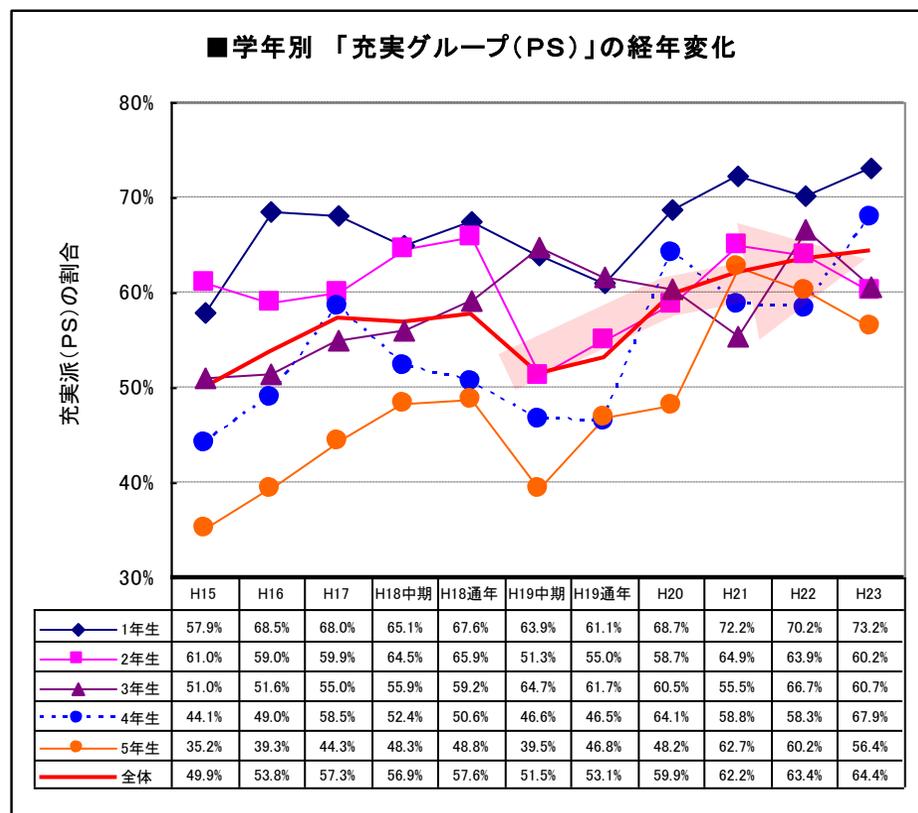
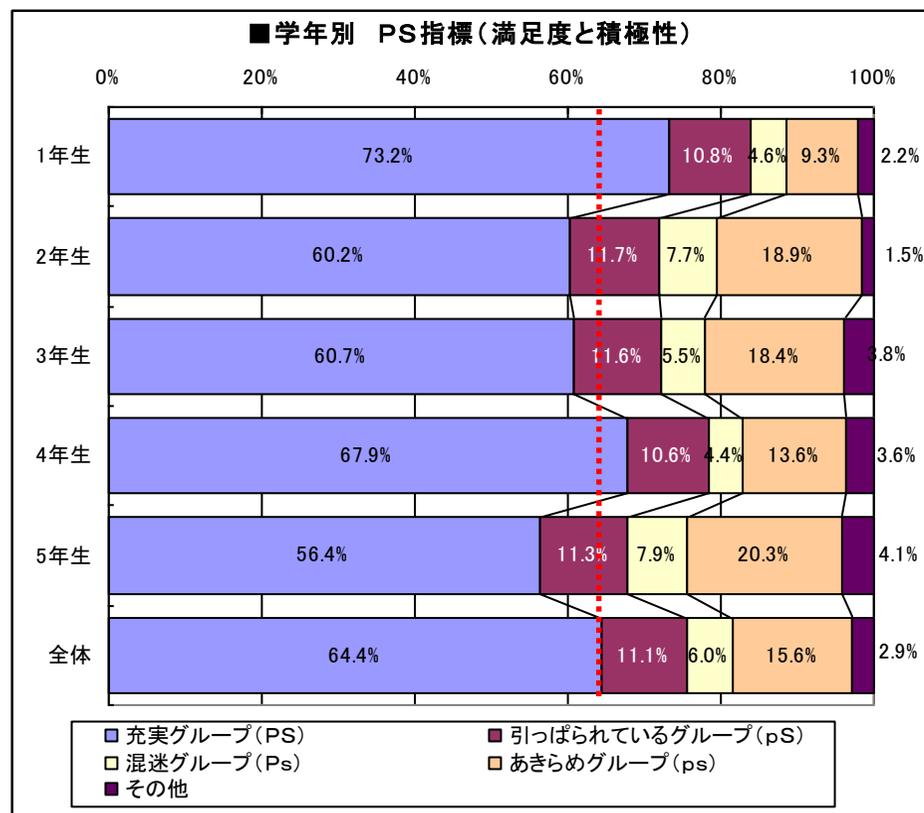
2) 部会別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の割合を部会別に比較すると、「一般」で71.6%と最も多く、次いで「M」が66.1%であり、全体平均を超えていたのはこの2部会だけであった。一方、「C・G」は59.4%、「D・T」は59.3%であり、この2部会は6割以下しかなかった。
- 「ps・あきらめグループ」は「C・G」で20.1%、「D・T」で19.3%とほぼ2割を占めており、「一般」の8.9%と比べると10ポイント以上の差がついており、「C・G」「D・T」のカリキュラムでは積極性を持ってずあきらめている学生が多く、対策が必要なのではないかとと思われる。
- 「pS・引っぱられているグループ」は部会による差が少なかったが、「D・T」と「一般」でやや多めであり、これらの部会のカリキュラムは教員によって引っぱられているパターンが多いものと思われる。
- 経年変化では「PS・充実グループ」だけを抽出して変化を見ているが、全体傾向としては前項で見たようにH19より継続的に増加が続いていた。部会別に見ると「一般」「語学」「数理」「M」は前回より「PS・充実グループ」が増加しており、特に「M」はH19頃から継続的に増加が続いており、良い方向に向かっているようであった。
- 一方、「D・T」と「C・G」は前回より「PS・充実グループ」が減少しており、「C・G」は2年連続の減少となっていた。



3) 学年別 PS指標比較

- PS指標を学年別に見ると、「PS・充実グループ」は「1年生」が73.2%で最も多く、次いで「4年生」が67.9%であり、この2学年は全体平均を上回っていた。一方、「2年生」(60.2%)、「3年生」(60.7%)、「5年生」(56.4%)の3学年は全体平均を下回っていた。
- 「ps・あきらめグループ」は学年による差が大きく、「1年生」では9.3%であったが、「5年生」では20.3%で、10ポイント以上の差があった。また、「2年生」「3年生」でも「ps・あきらめグループ」が全体の2割近くを占めていた。
- 学年との相関関係は見られなかったが、「1年生」と「4年生」が積極的に授業に取り組み、満足度が高い状態にあり、「2年生」「3年生」「5年生」であきらめている学生が多く、「2年生」と「5年生」では積極性は高いが満足度が低い「Ps・混迷グループ」がやや多い傾向が見られた。
- 経年変化を見ると、「1年生」と「4年生」はH22の学生群よりも「PS・充実グループ」が増加しており、特に「4年生」は58.3%から67.9%に、9.6ポイントと大幅に増加していた。
- 一方、「2年生」「3年生」「5年生」は前回より「PS・充実グループ」が減少しており、特に「2年生」と「5年生」は2年連続で減少していた。



<8> 調査のまとめ

1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 全体の77.1%は興味を持って授業を受けており、H19より継続的に授業に対する興味は強くなってきている。 □ 自宅で勉強しているという回答は40.4%で継続的に増加しており、「しなかった」という回答はこれまでで最も少なかった。 □ 71.2%が授業に積極的に取り組んでいると答えていたが、前回は0.3ポイント下回っており、H19からの増加傾向が途切れていた。 □ 授業に満足しているという回答は76.4%で、これまでで最高となり、不満を持っている回答は21.8%で最も少なかった。 □ 授業の評価では「好きな科目である」「教科書、教材、資料など」が高く、「黒板やビデオなどの説明、書き方」が低かった。 □ 授業の改善は進んでいるようで、「好きな科目である」がこれまでで最も高評価となり、好意的な意見の増加が目立っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はいずれも8割程度が肯定的な意見で、H19より継続的に増加しており、良い状態になっていると言える。 ▶ 21.8%が授業に不満と答えており、この層への対応が重要と言える。 ▶ 自宅で勉強する割合も年々増加している。 ▶ 「好きな科目である」はこれまでで最も多く、授業の改善は進んでいるようであった。
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 授業に関する「興味」「積極性」「満足度」は「一般」の高さが突出しており、「M」の満足度も高めであった。 □ 「D・T」は「積極性」、「C・G」は「満足度」の低さが目立っており、「数理」は授業に強い不満を感じている学生が多いようであった。 □ 「数理」「M」「D・T」は自宅学習をしているが、「C・G」「語学」は自宅学習をしていない傾向が見られた。 □ 「D・T」「C・G」は3指標共に前回は下回っていたが、他の部会は全て前回は上回り、特に「M」の向上が大きかった。 □ 授業評価は「一般」「語学」が高めであり、「M」「C・G」が全体的に低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「一般」の「興味」「積極性」「満足度」は突出し、これまでと同じであったが、今回は「M」も満足度が高く、前回は大きく上回っており、状態の良さが感じられた。 ▶ 「D・T」は「積極性」、「C・G」と「数理」は「満足度」が低く、不満を感じている様子がうかがえた。
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」共に「1年生」「4年生」が高く、学年との相関関係は見られなかった。 □ 「興味」「積極性」「満足度」共に、「1年生」では8割程度が肯定的意見であり、「2年生」「3年生」「5年生」では概ね7割程度であった。 □ 「1年生」と「4年生」が自宅で勉強する時間が長く、「5年生」が最も短かった。 □ 「1年生」と「4年生」は3指標共に前回は上回っており、特に「4年生」はこれまでで最も高く、特徴的な学生群と言える。 □ 授業評価では全体的に「1年生」の評価が高く、「5年生」は低めであり、この2学年は「好きな科目である」の差が非常に大きかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「1年生」はこれまでと同様に3指標共に高かったが、今回は「4年生」の高さが目立っており、特徴的な学生群と言える。 ▶ 学年との相関関係は見られなかったが、「5年生」が3指標共に低く、「好きな科目である」も最も低く、「4年生」とは対照的であった。

2) 創造実験・設計の評価、部会別の科目評価、達成度

	分野ごとの意見	まとめ
創造実験・設計	<ul style="list-style-type: none"> □ 「創造実験・設計」は「興味」「積極性」「満足度」のいずれもが授業全体を上回ったが、自宅学習はしていない傾向が見られた。 □ 「興味」「積極性」「満足度」の全てで「M」のスコアが最も高く、「C・G」が最も低かった。 □ 「宿題、予習、復習時間」を最もとっているのは「M」であり、「C・G」が最も少なかった。 □ 「M」は3指標共に前回は上回っていたが、「C・G」は3指標共に前回は下回り、「D・T」は「興味」だけわずかに上がっていた。 □ 「創造実験・設計」の授業は「好きな科目」という意見は多いものの、進め方やサポートツールなどに不満があるようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「創造実験・設計」は「興味」「積極性」「満足度」のいずれもが授業全体の平均より高く、充実している様子がうかがえる。 ▶ 「創造実験・設計」では「M」が最も充実しており、「C・G」が充実していないようであった。
評価の高い科目	<ul style="list-style-type: none"> □ 「一般」ではH22と同様に「保健体育」全体の評価が高めで、特に「保健体育Ⅳ」が最も高く、「倫理」が続いていた。 □ 「語学」では、「世界事情Ⅰ・Ⅱ」「英語表現技法」「日本文化」が上位を占めており、「ドイツ語」の満足度も高かった。 □ 「数理」では3指標共に「微分積分Ⅰ」が1番目、「応用数学」が2番目に高評価で、「微分積分Ⅰ」はH22と同様に高評価であった。 □ 「D・T」では、「アルゴリズム」「インターンシップ」の評価が高く、「コンピュータⅠ」は「興味」だけが良かった。 □ 「M」では「創造実験Ⅳ」が3指標共にトップであり、「創造設計」「創造実験」に興味を持って取り組んでいる様子がうかがえた。 □ 「C・G」では、「インターンシップ」「卒業研究」「電気電子工学Ⅱ」の評価が高めで、「創造実験Ⅳ」も高めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「一般」では各学年の「保健体育」の評価が高く、「倫理」が続いていた。 ▶ 「語学」では「世界事情Ⅰ・Ⅱ」「英語表現技法」「日本文化」、「数理」では「微分積分Ⅰ」「応用数学」の評価が高かった。 ▶ 「M」では各学年の「創造実験・設計」の評価が高い点が特徴的であり、「D・T」では「アルゴリズム」と「インターンシップ」、「C・G」では「インターンシップ」「卒業研究」「電気電子工学Ⅱ」の評価が高かった。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> □ 「積極性も満足度も高い」という、充実した学生は64.4%で、H19より継続して増加していた。 □ 「一般」と「M」で「充実グループ」が多く、H19より継続的に増加しており、「D・T」と「C・G」で少なかった。 □ 「充実グループ」が多かったのは「1年生」の73.2%、「4年生」の67.9%であり、この2学年は前年より良くなっていた。 □ 同一学生群では学年が上がるほど「充実グループ」が減少する傾向があるが、「現4年生」は横這いで、良い状態が続いていた。 □ 以前の卒業生では高学年ほど「充実グループ」が減少する傾向があったが、最近ではそれほど減少しないケースが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「充実グループ」は全体の64.4%で、H19より継続的に増加しており、良い状態になっていると言える。 ▶ 特に「一般」と「M」の授業が充実しているようであった。 ▶ 学年では「1年生」と「4年生」が充実している。また、現「4年生」は他の学生群と異なり、1年生から良い状態が続いており、特徴的な学生群と言える。 ▶ 卒業生の変化を見ると、最近の学生群は高学年での意欲低下が少なくなっているようであった。

3)全体のまとめ

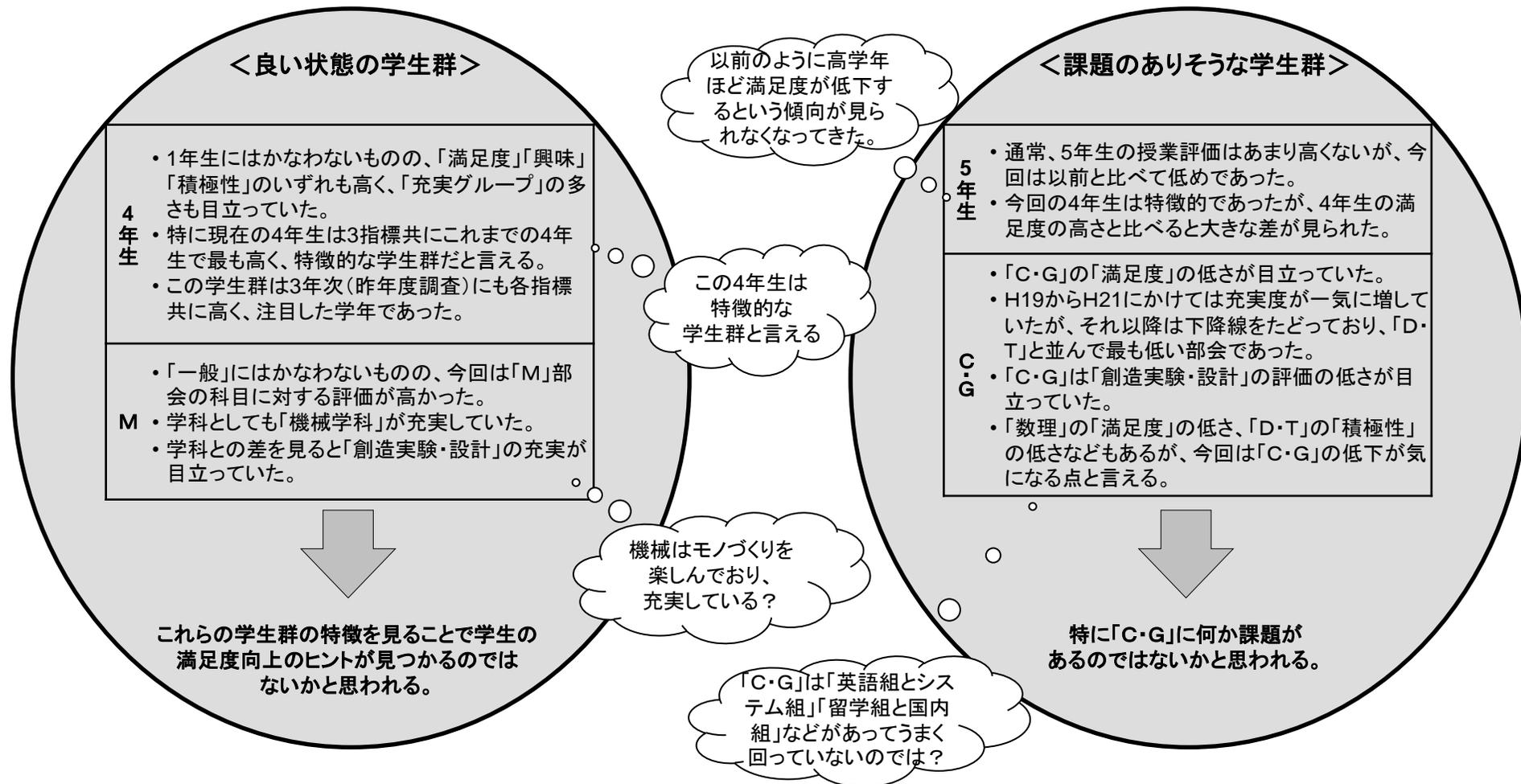
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はいずれも8割程度が肯定的な意見で、H19より継続的に増加しており、良い状態になっていると言える。 ■ 21.8%が授業に不満と答えており、この層への対応が重要と言える。 ■ 自宅で勉強する割合も年々増加している。 ■ 「好きな科目である」はこれまでで最も多く、授業の改善は進んでいるようであった。 	創造実験	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「創造実験・設計」は「興味」「積極性」「満足度」のいずれもが授業全体の平均より高く、充実している様子がうかがえる。 ■ 「創造実験・設計」では「M」が最も充実しており、「C・G」が充実していないようであった。
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「一般」の「興味」「積極性」「満足度」は突出し、これまでと同じであったが、今回は「M」も満足度が高く、前回は大きく上回っており、状態の良さが感じられた。 ■ 「D・T」は「積極性」、「C・G」と「数理」は「満足度」が低く、不満を感じている様子がうかがえた。 	評価の高い科目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「一般」では各学年の「保健体育」の評価が高く、「倫理」が続いていた。 ■ 「語学」では「世界事情Ⅰ・Ⅱ」「英語表現技法」「日本文化」、「数理」では「微分積分Ⅰ」「応用数学」の評価が高かった。 ■ 「M」では各学年の「創造実験・設計」の評価が高い点が特徴的であり、「D・T」では「アルゴリズム」と「インターンシップ」、「C・G」では「インターンシップ」「卒業研究」「電気電子工学Ⅱ」の評価が高かった。
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「1年生」はこれまでと同様に3指標共に高かったが、今回は「4年生」の高さが目立っており、特徴的な学生群と言える。 ■ 学年との相関関係は見られなかったが、「5年生」が3指標共に低く、「好きな科目である」も最も低く、「4年生」とは対照的であった。 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「充実グループ」は全体の64.4%で、H19より継続的に増加しており、良い状態になっていると言える。 ■ 特に「一般」と「M」の授業が充実しているようであった。 ■ 学年では「1年生」と「4年生」が充実している。また、現「4年生」は他の学生群と異なり、1年生から良い状態が続いており、特徴的な学生群と言える。 ■ 卒業生の変化を見ると、最近の学生群は高学年での意欲低下が少なくなっているようであった。



<全体のまとめ>

1. 全体としては充実した学生が増加して良い方向に向かいつつある。また、卒業生を見ても高学年による意識の低下が減りつつある。
2. 現4年生はこれまでの同学年にない充実感が感じられる学生群であった。昨年度の調査でも同学生群に注目しており、この学生群の特徴を知ることでは何らかのヒントが得られるのではないかとと思われる。
3. 「M」部会の授業に対する評価が高く、中でも「創造実験・設計」の評価が高かった。学科としては「機械」が充実していたが、これらが「M」部会の科目の改善によるものなのか、「機械」の学生群の特徴なのかを把握していくことで何らかのヒントが得られるのではないかとと思われる。
4. 今回、「C・G」の意識の低さが目立っていた。H19からH21にかけては充実度が一気に増していたが、それ以降は下降線を描いており、何らかの要因があるものと思われる。

4)全体の状態



<全体の傾向>

- 学生全体の「満足度」「興味」「積極性」は徐々にではあるが年々増しており、全体としては良い状態になっていると言える。それらの指標と連動している「充実グループ」も増加している。
- 8割の学生は満足して、全体としては良い状態になりつつあるものの、2割は不満を感じているため、この2割のフォローをしっかりとっていく必要がある。
- 授業の進め方などの評価も良くなってきており、改善が進んでいるものと思われる。
- 過去の卒業生の意識を見ると、以前のように高学年で意識が低下するということが減っている傾向が見られた。

平成23年度

KTC授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成24年4月12日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています